

私立大学情報教育協会  
平成25年度  
大学職員情報化研究講習会  
基礎講習コース報告

C-3班 ファミ★レス

1

C-3班ファミ★レスの紹介

なぜこのグループ名にしたか？

・チームの意見の中で「ファミレス」という  
例えを使った説明が印象的だったため

2

発表テーマ

出口を見据えた入口の整備

3

出口を見据えた入口の整備

テーマ選定理由(1) 大学の役割

私たちが考えた大学の役割

・優秀な人材を社会へ輩出すること。

役割を果たすために、大学は何をしなければいけないのか

- ・学生自身が目的・目標を持てるようにする。
- ・将来像が明確になるような支援をする。
- ・大学の支援体制を整備する。

4

出口を見据えた入口の整備

テーマ選定理由(2) 大学の現状

大学の現状はどうだろうか？

- ・支援体制はあるが、活用されてない。
- ・主体となっているのは大学のみで学生に浸透していない。



学生のベクトルが大学へ向いていない。

役割を果たすために、どのような取り組みが必要なのだろうか？

- ・学生に支援体制を知ってもらい、活用してもらう。
- ・学生主体の取り組みが行えるような環境整備を行う。



学生への意識づけ・動機づけを行う。

5

出口を見据えた入口の整備

テーマ選定理由(3) このテーマを選んだ理由

大学の役割、大学の現状を踏まえて、何が重要と考えたのか？

・入学初期段階から学生のベクトルを大学へ向けてもらう。



発表テーマ  
出口を見据えた入口の整備

6

## 出口を見据えた入口の整備

### 問題点の深堀

#### 入学して間もない学生は

- ・目的意識がない学生の相談先、心のよりどころがない。  
→どうしていいかわからない学生を救えていない。
- ・学生の希望やニーズを教職員が把握できていない。
- ・イベントや支援体制の情報が学生にうまく伝わらない。
- ・大学が学生にとって親しみやすい状態にある。
- ・自分の将来像を描きづらい支援体制である。



学生の気持ちが大学から離れてしまう。

7

## 出口を見据えた入口の整備

### 解決策の検討

#### ①大学としての取り組み

- ・学生が相談しやすい環境と知る機会の提供  
ex.「コミュニケーションルーム」  
→気軽に相談できる部屋を学生の目の届く所へ設置する。
- ・新入生アンケートや入学者を対象としたPROG(リテラシー・コンピテンシー)テストの実施。  
→目標のない学生は、目標を発見することができる。  
→目標がある学生は、自己分析により課題発見につなげることができる。
- ・イベントの良さや大学の取り組みを浸透させる。  
→学生の目の付きやすい場所へ情報を掲示する。  
→大学の支援制度などを、入学時の教育で教える。

8

## 出口を見据えた入口の整備

### 解決策の検討

#### ②学生からの取り組み

- ・学生から学生への支援を行う。  
ex.)「就職班」  
→業界別などに就職に関する支援体制や意見交換が行える環境整備  
→先輩や上級生によるES(エントリーシート)などの添削や助言  
「学生アドバイザー」  
→学生アドバイザー(上級生)による基礎科目などの補習教育

#### ③企業・外部からの働きかけ

- ・企業から人材を招き、正課の授業としてキャリア教育を取り入れる。
- ・企業を大学に招聘し、1年次から学内でのインターンシップを実施する。
- ・内定者・OBの学修履歴を開示し、ロールモデルを提供する。

9

## 出口を見据えた入口の整備

### 大学のイノベーションの提案

#### ・提案の概要

→入学初期段階から学生が積極的に活用できるような支援体制を整備し、学生のベクトルを大学へ向ける。

#### ・何を問題として捉えたか

→入学後、学生の気持ちが大学から離れていくこと。

#### ・問題を解決する方法として何を提案するのか

→学生に目的意識や目標、将来像を明確に持ってもらえるような入学初期からの支援体制を整備すること。

#### ・これを実現するために、どのようなアプローチが必要か。

→大学だけではなく、学生や企業などの外部機関を主体とした支援体制の整備

#### ・解決されたときの姿(どのような状況になれば目的が達成されたといえるのか?)

→『**学生の気持ち**』が大学へ向き、自信をもって社会へ出ることができる。

10